吉藤遺跡　現地説明会資料

平成 24 年 10 月 27 日 (土)
公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団
埋蔵文化財センター

１．はじめに

本調査は民間の開発に伴い実施した埋蔵文化財の発掘調査です。調査地は、松山平野の北東部、高縄山系の南西裾部の標高約 17 m に立地しています。周辺の遺跡には、東側丘陵裾に潮見遺跡や吉藤宮ノ谷遺跡、座拝坂遺跡、谷町遺跡などがあり弥生時代から古墳時代の集落跡が確認されています。また、西側の独立丘陵の室岡山 (標高 40.5 m) の蓮華寺境内には県内唯一とされる阿蘇凝灰岩の舟形石棺の身部が残っています。

２．調査の概要

調査では、主に弥生時代の集落に関連する溝・土坑・柱穴・小穴や倒木痕が発見されました。検出した遺構は弥生時代中期から後期（１～３世紀）の溝６条、土坑８基、柱穴３６基、小穴６１基、古墳時代後期の溝１条、近世以降の溝１条、弥生時代中期から後期以前の倒木痕７基です。遺物は弥生土器 (甕・壺・鉢・高坏・支脚・ジョッキ型土器・台形型土製品)、須恵器 (坏身)、石器 (石鏃・伐採具・石庖丁・石匙) などが出土しました。

３．わかったこと

今回の調査では、弥生時代の集落に関連した遺構と遺物に加え、弥生土器片を包含する遺物包含層を検出しました。

①遺物包含層は調査区全域に約 10 ～ 30cm 堆積しており、弥生土器片が多く含まれ古墳時代の溝に切られていたことから、弥生時代中期から後期の間に堆積したことがわかりました。

②柱穴は大小さまざまなものが数多く見つかっており、掘立柱建物が調査区周辺に存在していたことが想定出来ます。

③土坑ＳＫ７からは弥生土器の甕・壺・台形型土製品の破片や石匙の未完成品が出土しており、それらを廃棄した土坑であることがわかりました。

④倒木痕は弥生時代の遺構より古く、その残存する形状から強い南から南東の風を受けて木が倒れたことがわかりました。

⑤溝ＳＤ１は堆積した砂から常時流水があり南東から北西方向流れる古墳時代の溝であることがわかりましたが、その他の溝は堆積土から水が常時流れていたものではなく、湾曲や分岐しているものが見られ弥生集落内でどのような機能をもっていたか現段階では不明です。

⑥調査区北端のＳＫ６付近では人頭大の石が密集し、その周囲から高坏やミニチュア土器が出土していることから、周辺では祭祀行為を行った可能性があります。

調査地は丘陵裾に立地しており、弥生時代中期から後期においての集落の構造や性格の解明が今後の課題となります。

＝略 年 表＝

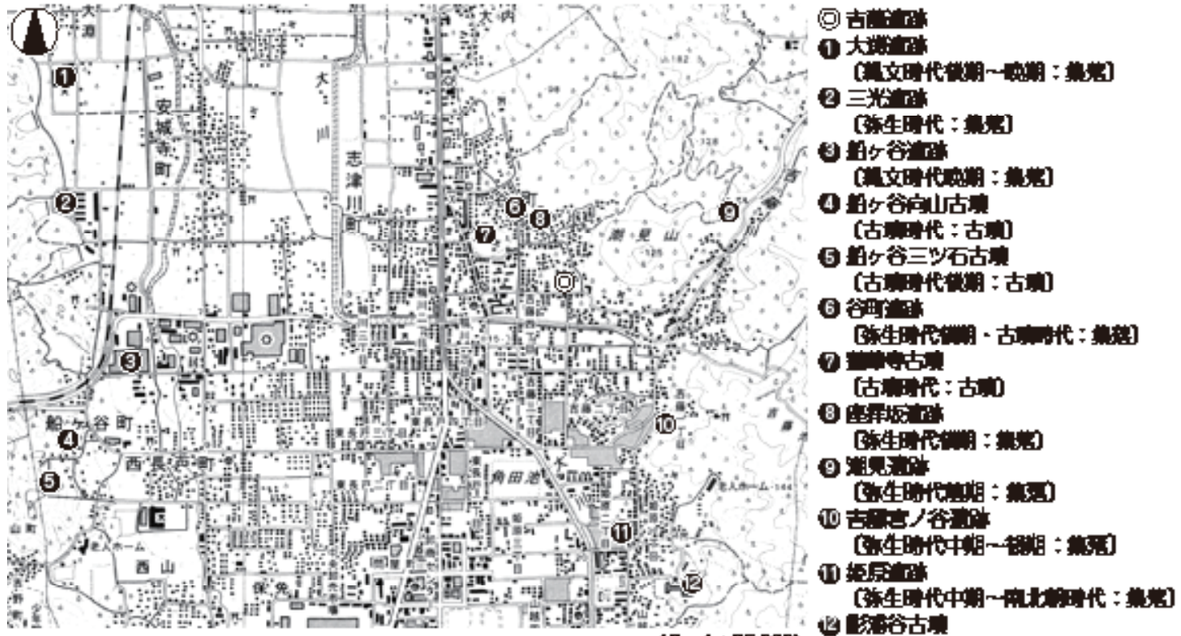


図１　周辺の遺跡分布図

写真１　潮見山中腹から調査地や室岡山を望む（南より）

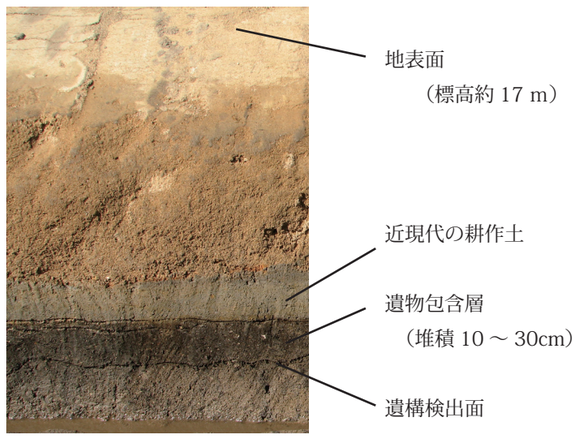


写真２　西壁面の堆積土
（東より）

写真３　重機による表土掘削（南より）

写真４　調査風景（南より）

写真５　遺構検出状況（南より）

写真６　遺構完掘状況（北より）

用語説明

- 遺構（いこう）　建物の跡や古墳など人々の活動の跡
- 遺物（いぶつ）　活動で使われた土器・石器・木器など
- 遺跡（いせき）　遺構や遺物が見つかる場所

- ＳＤ　溝
- ＳＫ　土坑（ものを貯蔵する穴・ゴミ穴）
- 柱穴（ちゅうけつ）　柱を建てるために掘られた穴
- 倒木痕（とうぼくこん）　倒れた木の根跡
- 弥生土器　色調は紅褐色などで、摂氏600～900℃で焼かれた素焼の土器で、弥生時代に使われた

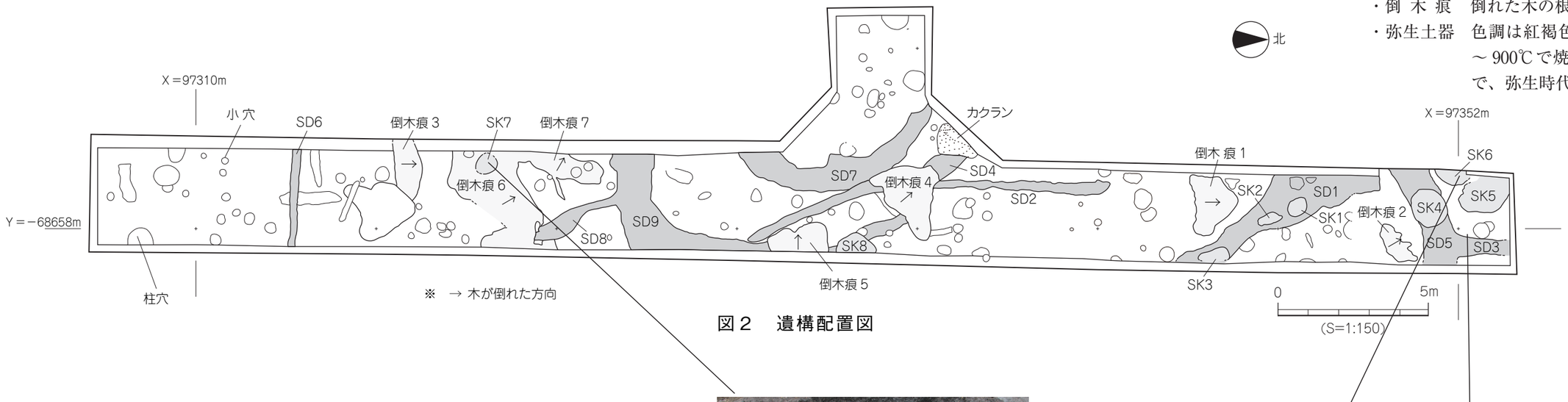


図２　遺構配置図

遺物説明

〔土　器〕

- 甕（かめ）　煮炊き用

- 壺（つぼ）　貯え用の容器

- 高坏（たかつき）　盛り付け用

- 支脚（しきゃく）　炉や竈で煮炊きの容器を支える

〔石　器〕

- 石鏃（せきぞく）　狩猟具および戦闘具

- 石庖丁（いしぼうちょう）　稲の穂摘み用の道具

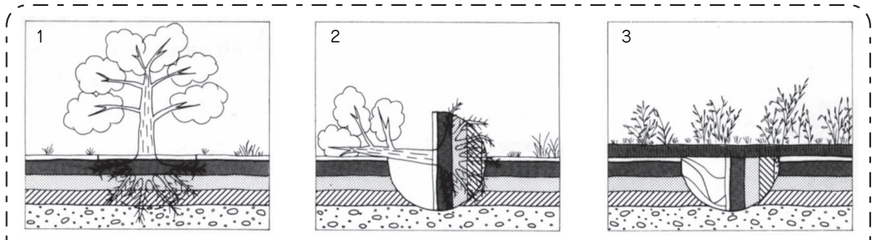
- 伐採具（ばっさいぐ）　樹木の打割加工などに用いられる

- 石匙（いしさじ）　切断・皮剥ぎなどの広い用途をもつ利器

写真７　ＳＫ７遺物出土状況（南東より）

写真８　礫出土状況（東より）

写真９　高坏出土状況（南より）



－ 倒木痕形成過程模式図 －